

令和5年度 第3回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会場 令和5年6月29日(木) 午後7時00分～8時03分 204会議室+Web会議
出席者 谷部議長、松本副議長、前川委員、指田委員、小池委員、齋藤委員、
二ノ宮リム委員、信國委員
欠席者 小原委員
事務局 川崎社会教育係長、中本主任

1 開 会

<配付資料>

- 資料1 令和5年度社会教育関係団体登録数について
- 資料2 第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会チラシ
- 資料3 都市社連協の会議及びブロック研修会等の開催方法について(アンケート)
- 資料4 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会ブロック研修会実施計画(案)
- 資料5 第8回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議 実施報告

・昭島市月間行事予定表7月

2 報 告

(1) 令和5年度社会教育関係団体登録数について (資料1)

※事務局より資料の説明

(2) 第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会チラシについて(11/21～22)(資料2)

事務局 資料のとおり栃木大会が開催される。2名分の予算を確保している。今後参加者を決定したい。

3 協 議

(1) 都市社連協の会議及びブロック研修会等の開催方法について(アンケート)(資料3)

事務局 役員会・拡大役員会で、今後の都市社連協の会議についてWebの活用を進めてはどうかとの意見があったので、各市にアンケートを実施することになった。アンケートの内容は資料のとおりである。

議 長 都市社連協の会議は議長が出席する役員会や理事会、委員も参加するブロック研修会などできる限りICTを活用してはどうかとの提案があった。

昭島は毎月の会議でも対面とWebを併用したハイブリッド型の会議を開催しているが、他市、全てがすぐに対応できるとは限らない。アンケートでは選択肢がいくつかあるが、特にブロック研修会について、意見があればいただきたい。

委 員 初対面の人と交流するのは対面の方が良い。

議 長 オンラインやハイブリッド型は、事務局の準備が大変である。

委員 受け身の講演会であればオンラインでもハイブリッドでも良いが、グループワークなどはオンラインではコミュニケーションをとるのは難しい。参加したくても現地に行けない人にとってはいいのかもしれないが、会話に入っていくのは難しい。

議長 コロナの影響がありオンラインも進んできたが、終息とは言えないが以前のような規制も考えにくい。YouTubeでの配信なども考えると多大な労力が必要であり、対面が良いのではないかと思う。

委員 ブロック研修会は各ブロックによって参加人数に差がある。オンラインにするとともに減るのでは。特にブロック研修会は対面が良い

議長 総会、交流会のような大規模な会議はどうか。

委員 総会をオンラインで行い、その場で意見を交わすのは大変である。

委員 今回の第2ブロック研修会はコミュニケーションについてになるが、対面が良いと考えている。

委員 総会等について、対面とオンラインのハイブリッドにして、事務量を増やしてしまうのはあまり良くないのでは。できれば対面が良いが、講師の話を聞きたい方もいるので、講演会部分のみYouTube配信をするのはいかがか。会員が何を望んでいるのか把握してから決めた方が良い。

委員 参加できないときはリアルタイムでなくとも録画配信で講師の話が聞けるのは良いが、総会部分は不要では。すべての市が対応できるとは限らないので、出来る範囲で実施すればよい。

議長 昨年、昭島でも交流大会でハイブリッドを実施したが、オンライン参加の講師の話が聞き取りにくかったと、オンラインの参加者から意見をいただいた。

事務局の人数等により実施が容易な市と困難な市があると思うが、研修会等については、講演会の録画配信などをしていただくとありがたという意見があったというところでまとめていただきたい。

(2) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会について

(資料4)

事務局 研修テーマはNVCについてになるが、テーマについて、どのような表現をしていくか、また、内容についても検討願いたい。

議長 仮テーマだけでも決めておきたい。

委員 みんなの願いをつなげるというところでNVCの理念や手法が役立つのではないかと考えている。今回の研修会は講師の話を聞くだけではなく、対話を経験しながら学ぶワークショップとなる。それを踏まえ、統一テーマにつなげながら、NVCやコミュニケーションという言葉を含め盛り込んでいければ良い。

委員 「みんなの願いを実現するためのコミュニケーション手法を体験する」ではどうか。

委員 対話という言葉を入れてもいいと思う。手法だけではなく、考え方や理念、対話に向き合うための姿勢や考え方も含まれる。

事務局 他市のように検討中としておいても良い。

議長 内容は、講演とワークショップとして、テーマについては統一テーマに即した内容で

検討中にしておき、仮のタイトルを入れても良い。

事務局 遅くとも、1月前に決めればよい。

議長 あとは、事務局でまとめてもらいたい。

(3) 第8回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について (資料5)

※事務局より資料の説明

議長 J:COMの取材もあり、あきしま会議に出席して良かったという印象を持って若者が話していた。大変心強く、次回以降もいただいた意見を取り入れていきたい。

委員 情報発信のグループであったが活発な意見が交わされていた。情報発信としてできることとして「チラシ」が上がっていたが、次の会議までに何かほかの方法も考えていければ良いと思う。今後もあきしま会議を進化させていきたい。

委員 若者も活発に意見が交わされていた。あまり計算されていない若者のアイデアをポジティブに、本当にやりたいことを楽しそうに書いていたことが印象的であった。できれば何か実現させたいと思った。

委員 施設のグループに参加したが、実現させたい意見も出ていた。

委員 横にも縦にも広がっていくような活発な意見が交わされた。毎回、会議に参加するたびにいろいろなことを教えていただいている。

委員 あきしま会議の対話ルールが浸透している。あきしま会議で話されたことが、実践されている例もあるようだ。

また、参加された方同士の交流を持つことも必要。参加していただいた方に「たより」やオンラインで配信するなどができると良い。次につながるのではないか。

委員 今回初めて若者版と大人の平行開催であった。若者版は高校生が頑張っていて、出身中学校にも出向き参加をお願いしたようである。大学生も参加し盛り上がっていた。

大人はやるべきことを整理し、委員が社会教育委員会議の中でやること、参加者がグループ等の中でやっていくことをしっかりと実現していくことが必要になる。粛々と進めなければならない。

若者の方は、中心となってくれた高校生に7月28日にフォローアップの会議を開催する旨伝えてある。それまでに、今回だされた意見の中で、何を具体化していきたいか、一度仲間の中で意見交換を進めてほしいと伝えてある。社会教育委員やこれまで活発に動いてくれた参加者大山さんなどがメンターとして付き、若者主導で物事が進んでいくように、また、大人の方で出された居場所づくりや若者に知られていない社会教育施設の活性化、大人が認識している課題ともつなげながら、若者が自由に動いていけるようにサポートしていくことを考えなければいけないと思っている。いろいろなことを具体的に詰める段階となり楽しみでもある。

J:COMの取材も若者がとてもいいコメントをしていて感動した。

議長 本日はこれにて閉会とする。

次回

7月27日(木)午後7時より 204会議室+Web会議

8月24日（木）午後7時より 204会議室+Web会議